

2021年8月21日「土」→9月23日「木祝」

9:30~17:00(入館は16:30まで)
休館日/毎週月曜日(ただし9月20日は除く)、9月21日(火)

会期中8月21日、9月23日は夜間開館(19:30)を実施します。
一般700(560)円/高校生・市内高齢者350(280)円/中学生以下無料

※1階中村善策記念ホール;3階一原有徳記念ホールと合わせてご覧いただけます。
※()内は20名以上の団体料金。



小樽 晩夏

BANKAKO

舞踏と美術

— 田仲ハルと舞踏に魅せられた美術家たち —

出品アーティスト

舞踏/田仲ハル(小樽在住)映像・公演記録写真・グラフィックデザイン提供
会場での映像「あずきの家」2019、「色内紀」2020 上映。

- ドローイング/ Aki Yo (札幌在住)
- 服飾/石岡美久(札幌在住)「algorithm」デザイナー
- 絵画・インスタレーション/上嶋秀俊(小樽出身、在住)
- 立体/ダム・ダン・ライ(ベトナム出身、小樽在住)
- 彫刻/福江悦子(札幌在住)

主催 市立小樽美術館

〒047-0031 北海道小樽市色内1丁目9-5 Tel 0134-34-0035 Fax 0134-32-2388

共催: 北海道新聞小樽支社

助成: 公益財団法人野村財団・芸術文化振興基金

協賛: 市立小樽美術館協力会

後援: UHB 北海道文化放送・札幌大谷大学芸術学部美術学科

OTARU Ture*Dure・クロスホテル札幌・ハナアグラ・舞踏家を描く会・
北海道コンテンポラリーダンス普及委員会・CONTE-SAPPORO Dance Center

企画協力

Otaru Studio
無猫屋

NOMURA 野村財団



写真・小宮広子 衣装・石岡美久

— 田仲ハルと舞踏に魅せられた美術家たち —


かつて小樽には、舞踏の地方活動のさきがけ「北方舞踏派」が結成され、彼らの舞台は、後に村松友視の小説『海猫屋の客』となる“シアター海猫屋”であった。本展開催の軸となる田仲ハルは、10代の少年時代に海猫屋の「北方舞踏派」を目撃し、上京して土方巽と邂逅、ソロとなった。再び小樽に戻りもう一度小樽から再燃させたいと活動を始めた。舞踏はその始まりから、美術・文学界から注目されてきた身体表現だったが、今ふたたび、田仲ハルを中心として、次世代のアーティストたちが田仲とのコラボレーションを展開している。

本展は国内外で活躍する舞踏家田仲ハルを囲んで、彼に触発された“舞踏新時代”のアーティストによる舞台芸術、衣装、グラフィックデザイン、映像、立体、ドローイングなど、多様な現代美術と舞踏が交錯する総合的な展示を試みる。



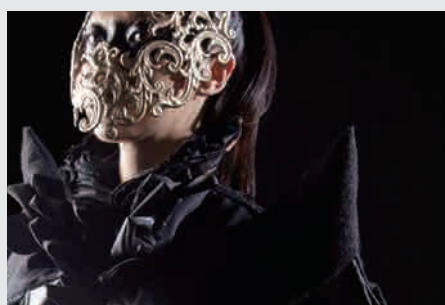
ドローイング AkiYo
AkiYo

AkiYoは、ほぼ独学で絵を描き、油彩具象画、ミクストメディアによる抽象画などを制作する。匿名で作品を展示する展覧会の企画など、表現と他者との関係性を試行錯誤したのち、10年間発表を中断し、制作のみに専念する。2015年に舞踏家田仲ハルにクロッキー会場で出会う。その後「舞踏家を描く会」を主宰しながら、田仲の舞踏世界をモノクロで表現することに専念し、現在まで3,000点を超える「ドローイング」を制作した。素描(デッサン、クロッキーなど)は、モデルの持つ存在感、エネルギーを、描く者の内部を通過させて瞬間で画面に定着する行為の結果と考え、木炭やチョーク、黒パステル等を用いて単色でのドローイングを続けている。

ファッション 石岡美久
Miku Ishioka

ファッションデザイナー石岡美久は、障がい者や性的マイノリティとの出会いを通じて、「人を認め合う世界を当たり前にした」という強い思いから、感性で伝えられるファッションという手段を選んだ。ブランドalgorithmを手掛け、レディーガガ、リアーナ、安室奈美恵などミュージシャンがステージ衣装として購入したことで、服飾界で国内外問わず知名度の高い存在となった。著名なミュージシャンのステージ衣装制作を受け、テレビ出演が相次ぐが、東京の生活を打ち切り、北海道札幌市へ移住する。自らのファッションショーでは、舞踏家田仲ハルとAkiYoをモデルに起用し、従来のショーを超越した世界を作り出した。田仲ハル着用をイメージした作品の制作、舞踏の動画撮影にも積極的に参加し、「舞踏」と「ファッション」が結び付いた新たな世界を創造し続けている。




絵画・インスタレーション 上嶋秀俊
Hidetoshi Uoshima

上嶋秀俊の作品は、“本能のままに己の命を燃やし、自然のままに自由に動く生命体”がテーマとなっている。人間も自然の一部であり、自然と自身の心の内を重ね合わせたいという願望から、日々たくさん色や形をスケッチしそれを集合体にした。拡散する力と求心力がせめぎ合っている、このエネルギーな表現は、日常生活で感じた社会の閉塞感や予測不可能な自然災害への無力さからくる憤りが引き金となっている。小樽在住で、田仲ハルと同世代の上嶋は、舞踏に魅力を感じ、田仲の舞踏公演の舞台美術を手掛けるなど、ジャンルを超えた制作を続けている。





立体 ダム・ダン・ライ
Dan Dang Lai

ダム・ダン・ライは、北海道の大自然に感銘を受けてベトナムから来日した。木を素材とした作品は、流水や、積雪の圧力で曲がった木々を使う。北海道の自然界が作り上げた形を見だし、独特の色彩感覚で着色し、空間全体を劇的に変容させる存在感を出している。自然と対話するなかから形を見だし、何かが生まれる予兆を作品に込めている。2010年『水協ビルを踊る』～異形のダンサー達がビルを乗取る前代未聞パフォーマンス～で田仲ハルと共演を果たし、身体表現にも取り組むようになる。




彫刻 福江悦子
Etsuko Fukui

福江悦子は人形制作からスタートし、その後は人物の顔、風貌を中心に制作してきた。借籍を持つ夢覚としての活動もある。舞踏には日本特有の“憑依”があると感じ、「舞踏の緩急、静と動の間にある何か」に興味を抱いて、田仲ハルの肖像や身体をモチーフに制作を続けている。また田仲との共演による写真集も発表した。

舞踏 田仲ハル
Haru Tanaka

田仲ハルは、舞踏の実践者であり、谷川俊太郎とのコラボレーションや国内外のアーティストとの共同公演、ツアーを行い、近年は「北海道舞踏フェスティバル」を道内のみならず台湾でも実施したことで知られる。田仲は、北海道静内町生まれだが、17歳の旅の途中で1980年代当時小樽海猫屋で練り広げられていた「北方舞踏派」を知り、その稽古場に足を踏み入れた。さらに上京して、舞踏の礎を開いた伝説的な人物、土方巽と邂逅し、以降はソロで活動を続けている。グラフィックデザインも手がける。



HINA (studio) 海猫屋
展示会ナビゲーター

■ 関連事業

BUTOH NIGHT (夜間開館 17:30 ~ 19:00 イベント) 完全事前予約制

- ファッションショー algorithm-石岡美久collection 2021 8月21日(土) 18:00~19:00
- 舞踏公演「小樽晩夏光」出演:田仲ハル、極北会、音楽:Kim Yooi 9月23日(木・祝) 18:00~19:00
- アーティストトーク 9月5日(日) 14:00~15:00 ※いずれも観覧券が必要です。

至札幌	JR 函館本線	小樽駅
	●産業会館	●ホテルドゥーミン
道道5号線	●オーセントホテル	
	●旧手宮線	
	●市立小樽美術館	
	●郵便局本局	
	●似島美術館	
	小樽運河	

●アクセス 小樽駅より徒歩10分